

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
85	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption is associated with a decreased risk of venous thrombosis. アルコール消費は静脈血栓症のリスクを減少させる	
執筆者	
Pomp ER, Rosendaal FR, Doggen CJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Thromb Haemost. 2008 Jan;99(1):59-63.	
キーワード	
アルコール、ケースコントロール研究、疫学、危険因子、静脈血栓症	
要 旨	
<p><b>目的：</b> 中等度の飲酒はいくつかの凝固因子を低下させることが報告されている。これらは循環器疾患の確立された防御因子である。しかし、静脈血栓症についてはよく分かっていない。</p> <p><b>方法：</b> 大規模なケースコントロール研究で、アルコール消費と静脈血栓症のリスクとについて検討した。MEGA study はオランダの6つの抗凝固クリニックの1999年3月から2004年9月に初めて静脈血栓症と診断された患者を含んでいる。患者の家族には参加について尋ね、さらに追加のコントロールは random digit dialling 法によって勧誘した。すべての参加者には統一された質問票を用い、血液サンプルを収集した。</p> <p><b>結果：</b> 4423名の患者と5235名のコントロールが解析に使用された。アルコール消費量は静脈血栓症のリスクの減少と関連し、一日2-4杯が非飲酒者と比べてもっともベネフィットが大きかった(オッズ比0.67、95%信頼区間0.58-0.77)。効果は男性と比べて(オッズ比0.82、95%信頼区間0.63-1.07)女性で大きく(オッズ比0.66、95%信頼区間0.53-0.84)、深部静脈血栓症(オッズ比0.74、95%信頼区間0.63-0.88)と比べて肺塞栓症(オッズ比0.56、95%信頼区間0.46-0.70)で大きかった。非飲酒者と比較してフィブリノーゲンレベルはアルコール消費者で最大0.30g/l低下していた。第7因子、vonWillebrand レベルは緩やかに低下していたが、アルコール消費カテゴリーとの関連は見られなかった</p> <p><b>結論：</b> アルコール消費量は静脈血栓症のリスクの低下と関連した。このメカニズムにはおそらくはフィブリノーゲンレベルの減少が寄与していると考えられる。</p>	